

# 円安で利益増の上方修正

～ 輸出企業を直撃する為替相場 ～

外国と貿易する企業や海外進出した企業にとって、為替(かわせ)相場は経営を大きく左右するものになっています。

為替相場は、外国の異なる通貨を交換する時の比率のことで、レートとも言います。よく聞く「円安」とは日本の通貨である円の価値が外国の通貨と比べて価値が低くなった、安くなったということで、逆の「円高」は円の価値が高くなったということです。例えば、「1ドル=90円」だったものが「1ドル=100円」になると「円安になった」ということになります。1ドルを手に入れるために90円支払ったものが、100円払わないと1ドルを手に入れることができなくなったので円の価値が下がった、つまり「円安」と言われるのです。逆に、「1ドル=90円」が「1ドル=80円」に変わると、1ドルを手に入れるために90円払っていたものが80円で済むので円の価値が高くなった、つまり「円高になった」ということになります。



海外に製品を売る企業にとって、現地で売った1万ドルを円に変える時に「1ドル=90円」であれば90万円になりますが、円安の「1ドル=100円」であれば100万円になります。ですから、外国へ輸出する企業は円安相場を望み、外国から輸入する企業は円高相場を望むのです。

アベノミクスによって円安が急激に進むことで、輸出企業は、売上高や利益を当初の計画よりも上方修正するところが増えました。

**【スズキ、純利益 24%増 円高で 100 億円上方修正】**(『日本経済新聞』2013年8月2日)

「スズキは2013年8月1日に、2014年3月期の連結純利益が前期比24%増の1000億円になる見通しと発表した。為替前提を円安方向に見直し、従来予想を100億円上方修正した。」「為替前提を1ドル=90円から95円に、1ユーロ=120円から125円に見直した。為替による年間営業利益押し上げ効果はこれまでの260億円から420億円に拡大する。」

**【ブラザー、円安効果 営業益上方修正】**(『日本経済新聞』中部版 2013年8月7日)

ブラザー工業は2013年8月6日、2014年3月期の連結営業利益が前期比18%増の350億円になる見通しと発表した。主力のプリンター事業が北米など海外で拡大するほか、ユーロの想定レートを従来の1ユーロ=115円から120円に見直したためだ。」「同社は1ユーロで1円円安になると、営業利益を年7億円押し上げる。足元(もっとも新しいレートのこと)は1ユーロ=130円程度で、単純計算で年約70億円利益が増える。」